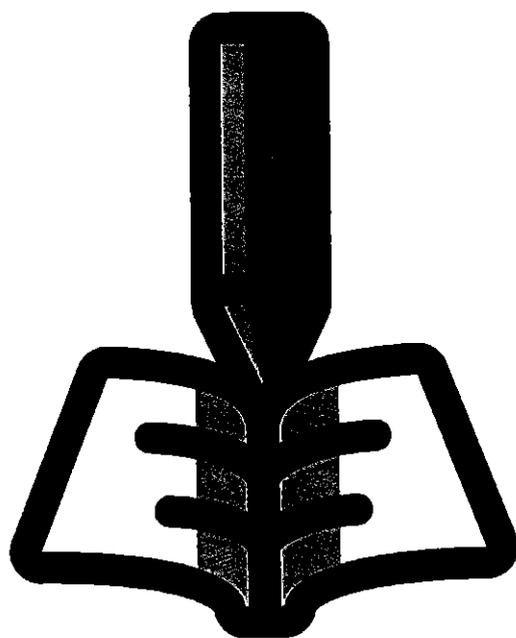
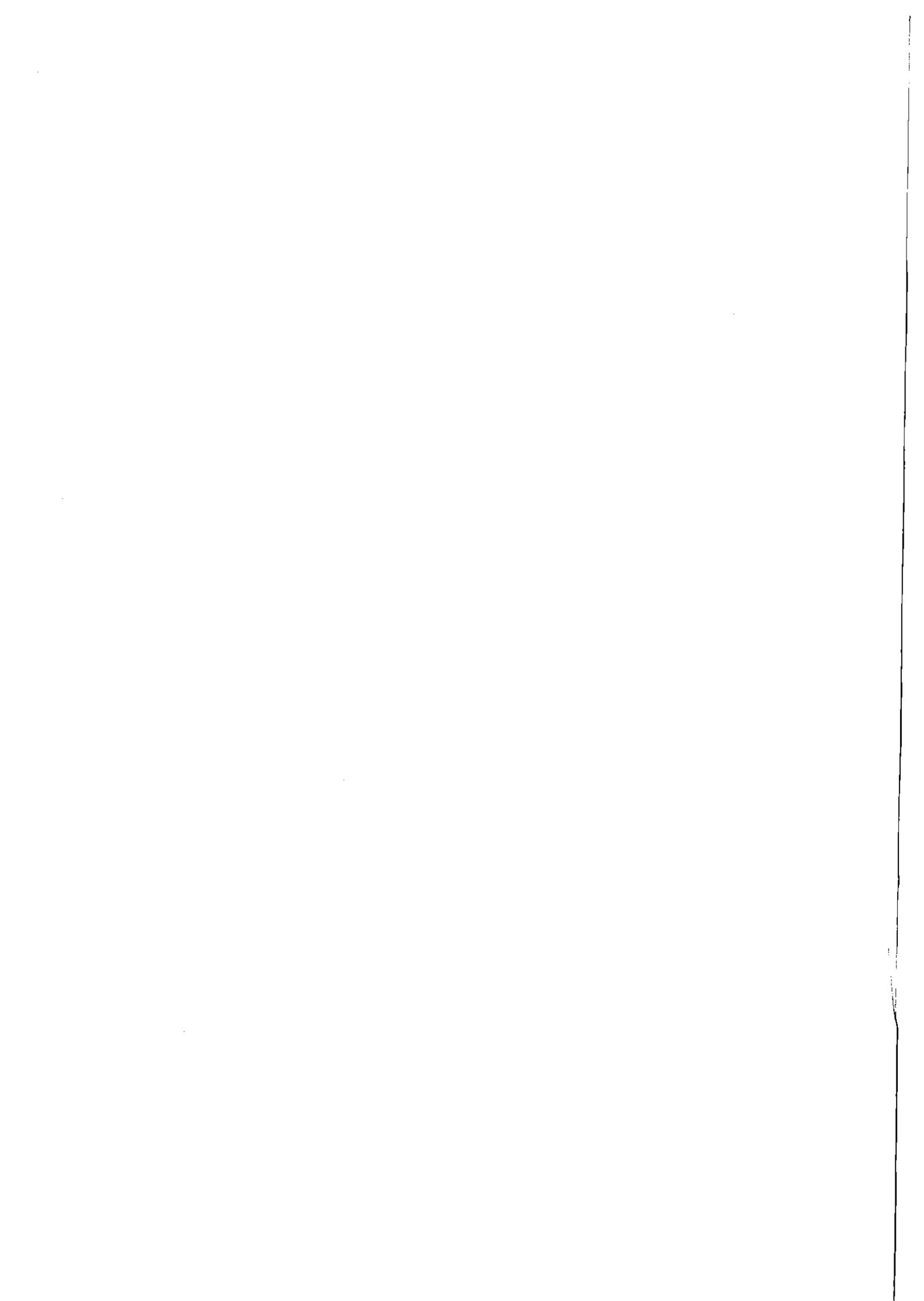


# BASIC

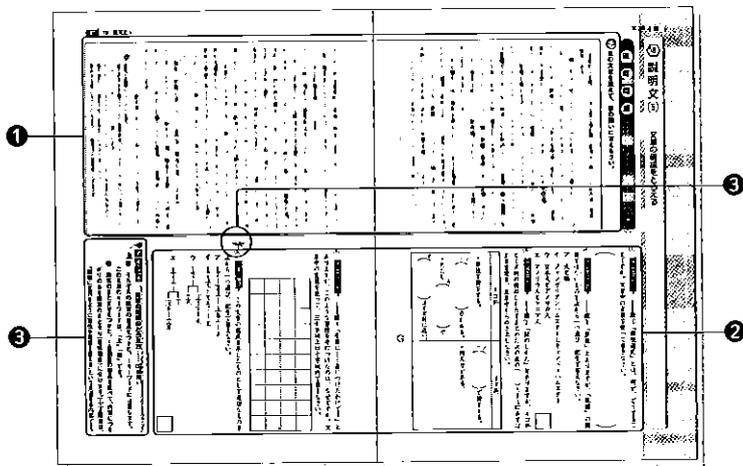


# 国語 6



# この本の使い方

**単元** 1つの単元を4ページでしっかり学習しよう。



## 確認問題

■良質な文章と問題に取り組もう。

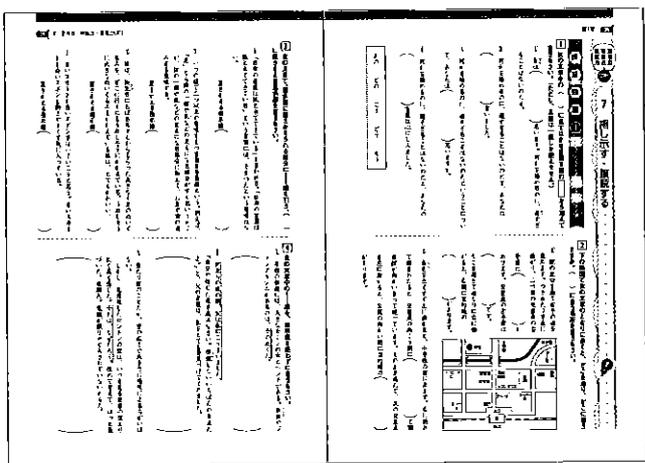
- ①文章の内容をしっかりと読み取ろう。
- ②学習テーマを中心とした基本的な問題に取り組もう。
- ③「双葉マーク」の問題は単元のポイントとなるので、解説とあわせてしっかりおさえよう。

## 練習問題

■いろいろな問題に取り組み、真の読解力を身につけよう。

- ①文章の内容をしっかりと読み取ろう。
- ②確認問題よりステップアップした問題にチャレンジしよう。
- ③「言葉のまど」で文章中の言葉について考え、理解を深めよう。

**章末** 章の最後に「思考力・判断力・表現力UP!」の問題にチャレンジしよう。



生活や学習活動上のさまざまな場面に生きる「思考力・判断力・表現力」を養うため、いろいろな問題を用意しました。各章の学習内容を踏まえた内容なので、スムーズに取り組むことができます！

- ★学習の準備や振り返りに使おう！ ▶ 学文的文章・説明的文章の読み取り方 ▶ 詩・短歌・俳句の基礎知識 ▶ 問題の答え方
- ★語い力を高めよう！ ▶ 言葉の学習・言葉のきまり
- ★学年の最後にやってみよう！ ▶ 総仕上げテスト

	3年	2年	1年	☆	☆	☆	☆	章
								單元名
								ページ
								学習予定日
								学習日
								チェック欄
☆				☆ 問題の答え方				
☆				☆ 説明的文章(説明文・論説文)の読み取り方				
☆				☆ 詩・短歌・俳句の基礎知識				
☆				☆ 文学的文章(物語・随筆)の読み取り方				
				① 物語(1) 場面・情景をとらえる				
				② 物語(2) あらすじをとらえる				
				③ 詩 表現技法や情景・心情をとらえる				
				④ 説明文(1) 指示語・接続語をとらえる				
				⑤ 説明文(2) 文脈をとらえる				
				⑥ 言葉の学習・言葉のままり(1) 漢字の成り立ち／熟語の読み方・二字熟語の構成／三字熟語・四字熟語				
				⑦ 思考力・判断力・表現力UP! 指し示す・接続する				
				⑧ 物語(3) 会話や行動から心情をとらえる				
				⑨ 物語(4) 人物の様子や情景から心情をとらえる				
				⑩ 随筆(1) 題材に対する筆者の思いをとらえる				
				⑪ 説明文(3) 段落の要点をとらえる				
				⑫ 説明文(4) 段落ごとのし関係をとらえる				
				⑬ 言葉の学習・言葉のままり(2) 同音異字・同訓異字・同音異義語／慣用句／ことわざ・故事成語				
				⑭ 思考力・判断力・表現力UP! 文を組み立てる・読み取る・漢字を分類する				
				⑮ 物語(5) 心情の変化をとらえる				
				⑯ 物語(6) 表現の特色をとらえる				
				⑰ 短歌・俳句 情景・心情をとらえる				
				⑱ 説明文(5) 文章の構成をとらえる				

	第3章	第4章	第5章	
☆	19 説明文(6) 要旨をとらえる			90 93
☆	20 言葉の学習・言葉のきまり(3) 文の組み立て／言葉の種類			94 99
☆	21 思考力・判断力・表現力UP! 文章を構成する・内容をとらえる			100 105
☆	22 物語(7) 人物像をとらえる			106 109
☆	23 物語(8) 主題をとらえる			110 113
☆	24 随筆(2) 表現の特色と主題をとらえる			114 117
☆	25 論説文(1) 事実と意見を読み分ける			118 121
☆	26 論説文(2) 筆者の考えをとらえ、要旨を読み取る			122 125
☆	27 言葉の学習・言葉のきまり(4) 日本語と文字・日本語の知識／敬語／言葉の使い方			126 131
☆	28 思考力・判断力・表現力UP! 資料を読み取る			132 137
☆	29 文学的文章の読解(1)			138 141
☆	30 文学的文章の読解(2)			142 145
☆	31 文学的文章の読解(3)			146 149
☆	32 文学的文章の読解(4)			150 153
☆	33 説明的文章の読解(1)			154 157
☆	34 説明的文章の読解(2)			158 161
☆	35 説明的文章の読解(3)			162 165
☆	36 説明的文章の読解(4)			166 169
☆	37 思考力・判断力・表現力UP! 資料や文章から総合的に考える			170 175
☆	総仕上げテスト(1)			176 179
☆	総仕上げテスト(2)			180 184



「ぼくだって、べつに行きたくないよ。」

口をとがらせて、健児はいった。

「じゃ、なんで、いっしょにくるんだよ。」

「おかあさんが行けっていった。おにいちゃんとなかなかおりするいいチャンスだから、行ってこいって。」

「ほらみる、バカだな。」

「なにがバカだよ。」

「おまえがしつこくシカトするから、こういうことになるって話。自業自得<sup>＊</sup>って、漢字で書ける？」

「ごちゃごちゃいっているうちに、おれたちは土手についていた。待ち合わせ場所の目じるしにした大きな栗<sup>＊</sup>の木の下で、先にきていたでくちゃんがアキレスけんをのばしてた。」

おれは健児にでくちゃんを、でくちゃんに健児を紹介<sup>＊</sup>した。

「へえ、山口の弟さん？ いわれてみると、にてるかも。」

でくちゃんは、おれたちふたりを見くらべながら、そういった。

「にてない、にてない。」

② 山口健児と山口拓馬<sup>＊</sup>の声が、ダブった。

なんか、険悪<sup>＊</sup>（意味がわからなかったら辞書をひこう）なムードになった。健児は、ふん、と鼻を鳴らして、でくちゃんのほうに顔をむけると、趣味<sup>＊</sup>がどうかこうとかいった、くだらないことを話しはじめた。おれは、むっつりだまりこくってラジオ体操<sup>＊</sup>第二をやると、上流にかかった鉄橋めざして、土手つぶちを走りはじめた。

〈笹生陽子「きのう、火星に行った。」より〉

注 自主トレリ自主トレニング。シカト<sup>＊</sup>無視<sup>＊</sup>。

自業自得<sup>＊</sup>自分<sup>＊</sup>がしたこと<sup>＊</sup>のむくいを自分が受けること。

### ポイント 3

人物像をとらえる。

- ・人物像とは、登場人物の年齢や家族関係、性格や考え方など、その人がどのような人物であるかをいいます。
- ・登場人物の会話や様子、行動から、人物像を読み取ります。

### 例題 3

線①「しぶしぶ家の外まで出る」、——線③「おれは、むっつりだまりこくって……土手つぶちを走りはじめた。」とありますが、これらの表現から読み取ることができる「おれ」の人物像として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分勝手な人物。 イ おおらかな人物。  
ウ 気が弱い人物。 エ しんぼう強い人物。

### ポイント 4

主題をとらえる。

- ・主題とは、作者が作品を通して最も強く伝えようとしている内容のことです。
- ・物語では、登場人物の心情の変化や、登場人物が新たに気づいたことに注目します。
- ・随筆では、筆者がどのようなことに感動しているか、どのようなことをうったえているかに注目します。

### 例題 4

線②「山口健児と山口拓馬の声が、ダブった。」とありますが、ここからわかることをまとめた次の文の□□にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

「にてるかも」といわれて、「おれ」と健児が同時に「にてない」と答えたことから、この兄弟がたがい<sup>＊</sup>に意地をはって、なかなか

できそうにないことがわかる。

□
□
□
□

# ★ 詩・短歌・俳句の基礎知識

## ① 詩の知識

●詩とは…作者が見聞きしたことや想像したことの中で心で強く感じたことを、リズム感のある言葉で表現したもの。ふつうの文章よりも短く選びぬいた言葉を使い、表現をくふうしています。

(1) 詩の種類

形式上	用語上	
	口語詩	文語詩
定型詩	口語 (現代の言葉) で書かれた詩。	文語 (昔の言葉) で書かれた詩。
自由詩	各行の音数にきまりがない詩。	
	各行の音数にきまりがある詩。七五調や五七調など。	

## (2) 詩の表現技法

比喩	直喩 「ようだ」「みたいだ」などを使ってたとえる。
	隠喩 「ようだ」「みたいだ」などを使わずにたとえる。
	擬人法 人間でないものを人間に見立てる。
倒置	語順を入れかえて、その部分を強調する。
体言止め	行の終わりを体言(名詞)で止めて、余韻を残す。 例 ああ なんと いう美しさ
対句	構成のよく似た語句を並べて、印象を深める。 例 霧雨のかかる道なり。／山風のかよふ道なり。
反復	同じ言葉をくり返して、印象を強める。 例 いちめんのなのはな／いちめんのなのはな

## ② 短歌の知識

●短歌とは…古代から現代まで受けつがれてきた日本の定型詩。自然や人間について心に深く感じたことを、短い言葉でくふうをこらして表現しています。

(1) 短歌の形式…五・七・五・七・七の五句三十一音。

例

初句(五音) 夕焼空	二句(七音) 焦げきはまれる	三句(五音) 下にして	…上の句
氷らんとする	湖の静けさ	…下の句	鳥木赤彦
四句(七音)	結句(七音)		

※三十一音より多ければ字余り、少なれば字足らずという。  
(2) 句切れ…意味や調子のうえて切れるところ。

初句切れ      二句切れ      三句切れ

四句切れ      句切れなし

○○○○○／○○○○○／○○○○○／

○○○○○○○／○○○○○○○

例 向日葵は金の油を身にあびてゆらりと高し／日のちひささよ

(3) 枕詞…ある特定の言葉の前に置かれて、歌の調子を整える五音の言葉。

例 草枕↓旅      たらちねの↓母      ひさかたの↓光・天

※短歌には、このほか、詩と同じように表現技法が使われます。

例詩

署名

嶋岡晨

- 1 未来をかつぐように道具をかつぎ ↓直喩|| 登山道具を未来にたとえて、「ぼくら」の夢を感じさせている。
  - 2 ぼくらは登る 雪山に ↓隱喩|| 雪に残る足跡を署名にたとえて、登頂を成しとげる決意を表現している。
  - 3 人間の最初の署名をしるすために
  - 4 まぶしい樹氷の沈黙のなかにも
  - 5 耳をすませばきこえてくる
  - 6 見えない若葉と鳥たちのはばたきが
  - 7 耐えることがやがて ↓擬人法|| 足跡を人間に見立て、自分の進む未来を信じる気持ちを表現している。
  - 8 よろこびの合唱をひろげる日となることを
  - 9 足跡は知っている。
- 2・3行目↓倒置|| 「ぼくらは登る」を強調している。  
5・6行目↓倒置|| 「きこえてくる」を強調している。
- (3) 詩の味わい方
- ① 表現技法に注目して、詩にえがかれている情景や心情をとらえます。
  - ② 各連の内容をおさえ、連どうしのつながりをとらえます。
  - ③ 作者が最も伝えたい感動の中心(=主題)を読み取ります。

3 俳句の知識

●俳句とは：日本独自の定型詩。季語をよみこみ、短い言葉の組み合わせから、自然の奥深い美しさを表現します。

(1) 俳句の形式：五・七・五の三句十七音。

例 初句(五音) 二句(七音) 三句(五音)  
鳥々に 灯をともしけり 春の海  
正岡子規

※形式にとられない俳句を、自由律俳句といいます。

(2) 季語：俳句には、季節を表す言葉(季語)を一句に一つよみこむというきまりがあります。季語の季節は昔のこよみ(旧暦)にもとづいていて、現代のこよみとはおよそ一か月ずれているので注意しましょう。

季節	旧暦	新暦	主な季語の例
冬	10~12月	11~1月	雪どけ・かすみ・水ぬるむ・かえる・ちよう・つばめ・うぐいす・梅・桜・藤・菜の花・ひな祭り・卒業
春	1~3月	2~4月	麦の秋・五月雨・夕立・せみ・かぶと虫・ほととぎす・はたる・若葉・万緑・ぼたん・ばら・ひまわり・風鈴
夏	4~6月	5~7月	残暑・名月・天の川・台風・露・こおろぎ・鈴虫・とんぼ・雁・もみじ・菊・萩・すすき・七夕・盆
秋	7~9月	8~10月	小春日・師走・木枯らし・時雨・霜・雪・枯れ野・ふぐ・鴨・落ち葉・さざんか・大根・こたつ・風邪

※正月に関連した季語をまとめて「新年」とする分け方もあります。

(3) 切れ字：「ぞ・や・よ・かな・けり」など、意味の切れ目を示す言葉。感動の中心を表します。

例 金剛の露ひとつぶや石の上 川端茅舎

※俳句には、このほか詩と同じように表現技法が使われます。

# ★ 説明的文章（説明文・論説文）の読み取り方

ある事柄ことばについて、筋道すじみちを立ててわかりやすく述べた文章を、説明的文章といえます。説明的文章は、説明文と論説文に分けられます。

● 説明文とは…ある事柄についての事実や筆者の考えを、読む人が理解しやすいように説明した文章。

● 論説文とは…ある事柄についての筆者なりの意見や主張を、根拠こんきょを示して論理的に述べた文章。

**例文** 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

\* ① ダニというと、イヌやウシにつく大きな丸いダニや、いわゆるハウスダストにまじっている小さなダニのことを思いだすだろうが、じつは植物の葉につくダニもたくさんいるのである。

② ハダニと総称そうしやうされるこのダニたちは、体長が一ミリメートルの半分か三分の一。ごく小さなダニである。彼らはいろいろな植物の葉裏はうらをすばしこく走りまわり、口吻くぶんをつつこんで葉の汁しるを吸すう。ハダニがたくさんつくと、葉はちぢれて、枯かれてしまう。するとダニたちは、まだ元気な葉にどんどん移うつっては葉を枯からしていく。ハダニの繁殖はんじふは早いので、そのままだと、早晚そうばんその植物の葉はほとんどすべて枯かれてしまい、植物は危機ききに陥おとることになる。

③ ところが、十年ほど前、オランダの研究者たちによって、そのような状況じやうきやうに立ち至いたった植物はポデューガードを呼び寄せ、それにハダニを退治たいぢしてもらって危機ききを逃のがれるということが明らかになった。

④ このポデューガードとはチリカブリダニとよばれる肉食性のダニである。チリカブリダニにもたくさん種類があるが、いずれもハ

**ポイント 1** 指示語の内容をとらえる。

・ 指示語は、物事を指し示す働きをする言葉です。  
・ 指示語の指す内容は、ふつう指示語よりも前にあります。

**例題 1** 線①「それ」は、何を指しますか。文章中からぬき出しなさい。

**ポイント 2** 接続語の働きをとらえる。

・ 接続語は、言葉と言葉、文と文、段落と段落などをつないで、その関係を表す働きをする言葉です。  
・ 接続語に注目して、接続語の前後の関係をつかみます。

**例題 2** 線②「ところが」は、どんな働きをしていますか。

適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 前の内容に後の内容をつけ加える関係を表す。  
イ 前の内容と反対になる内容が続く関係を表す。  
ウ 前の内容を後の内容でまとめる関係を表す。  
エ 前の内容が原因で後の内容が起こる関係を表す。

**ポイント 3** 段落の要点をとらえる。

・ 要点とは、その段落の中で筆者が最も説明したい事柄のことです。  
・ その段落でいちばん大切な文（中心文）を見つけます。



ダニと同じ程度の大きさのダニで、やはり植物の葉裏を走りまわっている。ただしチリカブリダニたちは、葉の汁を吸ったりしない。彼らの食べものは、同じくダニの仲間であるハダニたちである。彼らはハダニをみつけて襲い、つかまえてその体に口吻を突きさし、体液を吸いとって殺してしまふ。チリカブリダニの大群に襲われたら、ハダニはひとたまりもない。たちまちにしてやられてしまふ。

⑤ 一方、チリカブリダニのほうは、餌であるハダニはいないかと、植物の葉っぱから葉っぱへ走りまわる。ハダニの群れをみつけたら、そこで次々にハダニを食べはじめ。こうして、ハダニのたくさんついた葉には、まもなくチリカブリダニが次々にやってきて、ハダニをやっつけはじめる。

⑥ このことはかなり昔からわかっている、農林業にとって、ハダニは悪いダニ、チリカブリダニはその天敵である良いダニ、ということになっていた。そして、チリカブリダニは自分たちの獲物であるハダニにひきつけられ、ハダニのたくさんいるところに集まってくるのだ、と考えられていた。

⑦ ところが、この研究者たちは、ハダニにとりつかれた植物が、SOS信号を発して、チリカブリダニを呼ぶのだ、というのである。

⑧ ハダニにとりつかれて弱った葉は、ある物質を作りだす。その物質の匂いがチリカブリダニをひきつける。その結果、ハダニにひどくやられた植物には、たくさんのチリカブリダニがかけつけてくる。チリカブリダニたちは獲物にありつき、結果的にその植物は救われる。自分が呼び寄せたボディーガードつまりチリカブリダニがハダニをやっつけてくれるからだ。〈日高敏隆「春の数えかた」より〉

注 ハウスダスト室内のほこり。口吻口先。ボディーガード自身の安全を守ってくれる人。SOS信号救助を求める合図。

例題3 第⑥段落の要点を、「チリカブリダニは、……」に続くように、簡潔に書きなさい。

チリカブリダニは、

ポイント4 文章の構成をとらえる。

- ・段落の要点をもとに、文章を内容につながるのがある段落のまとめ（意味段落）に分けます。
- ・結論がどこにあるかなど、文章がどのような組み立てになっているかを考えます。

例題4 この文章の構成として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 最初に結論がくる。 イ 最初と最後に結論がくる。  
ウ 最後に結論がくる。 エ 真ん中に結論がくる。

ポイント5 要旨をとらえる。

- ・要旨とは、筆者が最も伝えたい中心的な内容のことです。
- ・要旨をとらえるには、結論を述べた段落をさがします。

例題5 この文章の要旨を次のようにまとめました。（ ）にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

（ ）にとりつかれた植物は、ある物質を作り、そ

の（ ）でボディーガードとなるチリカブリダニを呼ぶ。

# ★ 問題の答え方

ポイント 1 「ぬき出しなさい」と「書きなさい」を区別する。

それは、去年の七夕だった。昼から小雨こさめが続いていたので、夕方になっても街の人はみな、かさをさしていた。わたしもあの日、<sup>①</sup>とうめいなビニールのかさをさして、歩いていた。かさについた雨粒あまつぶに、街の光が映うつっておもしろい。

そのときだ。とつぜんわたしの足もとに一ぴきの黒いネコが当たった。わたしは思わず飛び②のいて、そのネコの顔を見た。

(1) — 線①「あの日」とは、いつですか。文章中からぬき出しなさい。

アドバイス

↑「ぬき出しなさい」とあるので、文章中の言葉をそっくりそのまま書きます。

## 去年の七夕

(2) — 線②「飛びのいて」とありますが、このときの「わたし」の気持ちを書きなさい。

↑「書きなさい」とあるので、自分で言葉を考えて書きます。

例 おどろく気持ち。

### POINT

- 「ぬき出しなさい」とあるときは、習っていない漢字が出ていても、平仮名ひらがなには直さずに、そのまま漢字で書きましょう。
- 「文章中の言葉を使って書きなさい」とあるときは、文章中の言葉を利用して、語順や文末などを変えて、文の形を整えて答えましょう。

ポイント 2 指定された字数どおりに答える。

日本の多くの子どもは太陽を赤くかきますが、海外では太陽を黄色くかく国もあります。日本では赤い太陽が常識でも、それが常識でない国があるのです。ところで、実際の太陽の色は、赤でも黄色でもなく、むしろ白に近いのではないのでしょうか。

つまり、わたしたちは常識にしばられて、本当のものを見えないことがあります。これをわたしは、常識のわなとよびます。

(1) — 線「それ」が指しているものを、文章中から五字以内でぬき出しなさい。

アドバイス

↑「五字以内」とあるので、五字かそれよりも少ない字数の言葉をぬき出します。

赤い太陽

(2) 太陽が赤いと思いきこんでいることを、筆者は何とよんでいますか。文中から五字でぬき出しなさい。

常識のわな

↑「五字で」とあるので、五字ちょうど言葉をぬき出します。

### POINT

- 次のような指定にも注意して、答えるようにしましょう。
- 「文で」…句点(。)( )で区切られているひとまとまり。
- 「部分を」…文の中の一部や、二つ以上の文にまたがるひと続き。
- 「語で」…「赤い」「太陽」のような、辞書に出ている言葉の単位。

ポイント 3

シカの角は春になると、自然に落ちます。そして、新しい角が生えてきます。この、生えてきた新しい角は、骨のようではなく、皮をかぶり、血がかよっています。これを「袋角」といいます。その後は、すすくとのびながら、内部に硬い角を作っていきます。夏の終わりから秋にかけて皮がはがれ落ちると、硬い立派な角がでさがるのです。

アドバイス

(1) 線①「新しい角」は、秋にはどうなりますか。十字以内で書きなさい。

硬	い	立	派	な
角	に	な	る	。

↑ 答えの文の終わりには、「。」をつけます。この「。」も一字として数えます。

(2) 線②「袋角」の様子が具体的にわかる一文をぬき出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

こ	の	、	生	え	く
て	い	ま	す	。	

↑ 「。」や「、」（句読点）も一字としてぬき出します。特別に句読点を数えないときには、問題に「句読点は一字に数えません。」などの指示があります。

ポイント

□ 字数を数えるときは、「。」「、」「」だけでなく、「」（かぎかっこ）などの符号も字数にふくめて数えます。

ポイント 4

教室にもどってきたテツは、自分の机を見た。ノートがなくなっている。おかしいな、と思ったテツは、「ここにあったノート知らない？」と、近くにいた明にきいた。すると明はなぜか、「そんなこと、おれが知るわけないよー」となった。テツはびっくりして、次の言葉が言えなくなってしまった。

アドバイス

(1) 線①「おかしいな」とありますが、テツはどんなことがおかしかったのですか。書きなさい。

(例) ノートがなくなっていること。

↑ 「どんなこと」「どういうこと」ときかれたら、「……こと。」と答えます。

(2) 線②「テツはびっくりして」とありますが、なぜびっくりしたのですか。十字以内で書きなさい。

明	が	ど	な	っ
た	か	ら	。	

↑ 「なぜ」ときかれたら、「……から」「……ので」など、理由を表す表現で答えます。

ポイント

- 「は何ですか。」 ↓ 「……こと。」など、文末を名詞にします。
- 「どんなときですか。」 ↓ 「……とき。」と答えます。
- 「どんな様子ですか。」 ↓ 「……様子。」と答えます。
- 「何のためですか。」 ↓ 「……ため。」と答えます。

# 1 物語 (1)

## 場面・情景をとらえる

### 確認問題

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

もしもどこかに元気でいて、家までの道を忘れてしまったとしても、大好きだった雑木林ならおぼえているだろう。そう思って、毎朝、敏夫は通ってきているのだ。

「シロは、だれにでもすぐ懐くやつだからな。もしかすると、よその家で暮らしてるかもしれないぞ」

ふとパパの洩らした言葉が、敏夫の胸に引っかかっている。

「シロは賢い犬だもの、そんなことないわよ。だれかにさらわれてって、帰れなくなってるんだわ」

① かばうようにママは言ったが、それも敏夫を哀しくさせていた。嘘でもいいから、いまにかならず帰ってくる、と言ってほしかった。敏夫自身は、そう信じているのだ。

「おおい、シロ、帰っておいで」

すぐ近くの木の陰から、いつものように、そつとうかがっているような気がして、今度は優しく呼んでみた。

② 散歩に来た人びとが、木々の向こうから、こちらを眺めていく。その前後を、飼い犬たちが、はしゃいだ足どりで歩いている。

注 うかがう＝ひそかにのぞく。

〈内海隆一郎「雑木林で」より〉

### 場面

(1) この文章の場面を次のようにまとめました。□にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

敏夫が、 にやっできて、いなくなった飼い犬

である  をさがしている場面。

(2) 内容をつかむ 線①「かばうようにママは言ったが、……」

敏夫を哀しくさせていた。」とありますが、敏夫が哀しくなるのは、なぜですか。次の文の( )にあてはまる言葉を書きなさい。

「ママ」の発言は、( )

と言っているように聞こえるから。

(3) 情景 線②「その前後を、飼い犬たちが、はしゃいだ足どりで歩いている。」とありますが、この飼い犬たちの楽しそうな様子は、敏夫にどんな気持ちを感じさせていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア シロに腹を立てる気持ち。
- イ シロを恋しく思う気持ち。
- ウ シロに会えると確信する気持ち。
- エ シロにもう会えないと絶望する気持ち。

### ポイント

場面のとらえ方……(1)の問い

注目し、主人公の敏夫がどこで、何をしているのかをつかみます。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

うちに帰る間じゆう、僕らはほとんど口をきかなかった。土手の上を歩いていく間に、夕日が僕らの背丈と同じくらしいところまで沈んできた。

見おろすと、川も、スキの原っぱも、遠くの橋も、そこを渡っていく車も、ありとあらゆるものが真つ赤に染まっていた。世界中が血を浴びたみたいだった。

半ズボンの裾から、すきま風がびゆうびゆう通って背中へ抜けていく。この帰り道をいつでも一緒に歩いてきたヤンチャがいないなんて、なんだかとても変、というか、理屈に合わない感じがした。奥歯が一本抜けてしまったようで、どうにもうまく力が入らないのだ。

土手の道を町のほうへおり、もうすぐ家、という頃になって、僕はふとつぶやいた。

「タイムマシンがあればいいのにな」

頭に浮かんでいたのは、『ドラえもん』の一場面だった。

「なんだよ、いきなり」と、ハム太。

「だってさ。タイムマシンさえあれば、十年でも二十年でも先の世界へ行つてこられるわけだろ？」考え考え、僕は言った。「それぐらい先の世界ならきつと、今よりずっと進歩してるんじゃないかと思つてさ。ヤンチャの病気なんか、ただの風邪みたいに簡単に治せるようになってるかもしれないじゃないか」

〔村山由佳「約束」より〕

(1) **場面** この文章の場面を次のようにまとめました。( )にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

「僕ら」の仲間の一人である( )が治りにくい( )にかかり、いつも一緒にいた彼のことを

思いながら、「僕ら」が帰り道を歩いている場面。

(2) **情景** 線①「世界中が血を浴びたみたいだった。」とありますが、この表現はどんな情景を表していますか。次の文の□にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

辺り一面が□で□に染まっている情景。

(3) **情景** 線②「半ズボンの裾から、…背中へ抜けていく。」とありますが、この情景は、「僕」のどんな気持ちを表していますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア さびしさ イ いかり  
ウ あせり エ こちよさ

(4) **内容をつかむ** 線③「タイムマシンがあればいいのにな」と「僕」が言ったのは、なぜですか。書きなさい。

**ポイント** 情景のとらえ方……(2)・(3)の問い

情景と心情のつながりを理解する。…登場人物の目を通してとらえたある場面の様子が「情景」です。この文章では、友達を心配する「僕」の心情が、情景描写と深くつながり合っています。

練習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

木下さんは、絵がとても上手だ。

今日の図工は、カセットテープでできた物語を頭の中に思い浮かべて、自分で想像して絵にするというものだ。

話の内容は、簡単に言うと、ふくろうが夜の森で鳴いている。それだけ。本当に事実として語られているのは「ふくろうが夜の森で鳴いている」ということだけなのだ。あきれるくらい、まったく。

図工は大好きな科目のひとつで（二時間続けてというのが、またいいのだ）、絵を描くのも、ものを作るのもとてもたのしい。私は銀色の木の枝にとまって静かに鳴いているふくろうを、画用紙いっぱい大きく描いた。藍色の夜空に黄色の星をちりばめて。

私の絵はいつも単純で大胆だ。遠くからでもさええの絵はすぐわかる、と授業参観に来たお母さんが言ってたっけ。

休み時間に、木下さんの絵を見せてもらうことにした。

①「すごい……」  
私は本当に一瞬止まってしまった。

いくつものオレンジ色のグラデーシヨンの空。黒い木は枝が細かくリアルに分かれていて、ふくろうはその細い枝に足爪をかけ、羽根を広げ、今まさに飛び立とうとしている。そしてその目の先には、もう一羽のふくろうが悠然と空を飛んでいる。

この色使い、この構成、一枚の画用紙の中にあるこの物語感。「すごいすごい。木下さん、すごいよ。こんなうまいの見たことない、すごいすごい」

20 15 10

(1) この文章では、「私」が何をしたとき、次の文の□にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

「私」が、

□

の時間にえがかれた

□

□

を見せてもらったときのこと。

(2) 線①「私は本当に一瞬止まってしまった。」とありますが、ここから「私」のどんな気持ちかわかりますか。書きなさい。

（ ）

(3) 「私の絵と、木下さんの絵について、次の各問いに答えなさい。

1 「私」の絵の、ふくろうとまわりの様子のえがき方には、どんな特徴がありますか。文章中から五字でぬき出しなさい。

□

2 えがかれた絵の様子に動きが感じられるのは、「私」の絵と木下さんの絵のどちらですか。書きなさい。

（ ）の絵

(4) 線②「みんなの息を飲む音がきこえてきそうだ。」とありますが、ここから「みんな」のどんな様子がわかりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 木下さんの絵をすみからすみまで見ている様子。
- イ 木下さんの絵のうまさにびっくりしている様子。
- ウ 木下さんの絵のよさがわからずとまどっている様子。
- エ 木下さんの絵のすばらしさに大さわざしている様子。

□



私は大興奮して大きな声ではしゃいだ。その声をきいた何人かが集まってきて、木下さんの机を囲んだ。② みんなの息を飲む音がきこえてきそうだった。

でも女の子のことをほめるということが、世の中でいちばんはずかしいことだと思っている男子たちは、心の中で絶対に「すげー」と思っているにちがいがなくても、決して声には出さないうで「へえ」だの「ふうん」だのと言って、そそくさと逃げてしまった。

女の子たちも「うまいね。木下さんじょうず」と言いながらも、一度自分の目で確認したら、もう満足といった感じて、すぐにどこかに散って行ってしまった。

③ 私だけがいつまでもそこを離れられずにいた。だって、すごい。こんなすばらしい絵が目の前にあるのに見えないなんて損だ。しかもそれを描いたのが、私と同じ年の女の子だなんて！ まったく信じられない。

「ほんとにすごいよー、すごいすごい感動だよ」

「ありがとう」

木下さんは、照れながらもうれしそうにそう言った。

④ 「ねえ、木下さんは、いつからこんなに絵がうまくなったの？」

「え」

木下さんは、一瞬意味がわからないというような顔をしたけど、そのあとすぐになっこりと白い歯を見せて、また、

⑤ 「ありがとう」

と言った。

〈椰月美智子「十二歳」より〉

45

40

35

30

25

② さえ「私」の名前。グラデーシヨンの濃さがだんだん変わることにリアルに真にせまっている様子。悠然とゆつたりと落ち着いている様子。

(5) — 線③ 「私だけがいつまでもそこを離れられずにいた。」と

ありますが、「私」が木下さんの絵から目を離すことができない理由として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 木下さんの絵に感動したことを、もっといろんな言葉で伝えられたから。

イ 木下さんに「私」がかいた絵を見せて、感想をききたいと思ったから。

ウ 木下さんに、どうすればすばらしい絵がかけられるかを教えてもらいたかったから。

エ 木下さんの絵のすばらしさに引きこまれてしまい、ずっと絵を見ていたかったから。

(6) — 線④ 「ねえ、木下さんは、いつからこんなに絵がうまくなったの？」とありますが、「私」は、なぜこのようにきいたのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 木下さんが自分の力だけで絵をかいたとは思えなかったから。

イ 木下さんの自分自身の絵に対する評価を知りたかったから。

ウ 木下さんのように絵が上手になりたいと思ったから。

エ 木下さんが絵をかき始めた時期を知りたかったから。

(7) — 線⑤ 「ありがとう」とありますが、木下さんは「私」の言葉を、どのように理解したのですか。次の文の( )にあてはまる言葉を、考えて書きなさい。

「私」が自分の絵を( )くれたと思った。

言葉のまど リアル (7行目) … 英語の「real」からきた外来語で、「リアルだ」などの形で使います。「いかにも実際にありそうな、生き生きとした迫力をもっている様子。」という意味です。

2 物語 (2)

あらすじをとりとえる

確認問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

にぶい音がした。バットが球をはじき返していた。ボールは三塁手の前にころころと転がっていき、打ったバッターは一塁めがけて走っていた。三塁手はすばやくボールをすくいとりと、一瞬迷ったのち、いそいでホームに投げた。三塁のランナーがホームにすべりこむのより少し早くボールは祐一くんのミットに入った。アウトだと思った瞬間、「セーフ。」と審判が言った。よく見ると、ミットに入ったはずのボールはぼろりとこぼれて、キャッチャーの足もとにあった。

① 「試合終了。」と審判は言った。

祐一くんは両膝を地面につき、うなだれた。「整列」という声がかかって、ようやく祐一くんは立ちあがり、マスクを取った。祐一くんは笑っていた。

ピッチャーの少年は赤い目をばしばしさせていた。ほかの選手たちもみな口をかたくむすび、怒ったような顔をして整列していた。三塁を守っていた子はうつむいたまま、ユニホームの膝のところを15手でしつこくごしごしこすっていた。

礼をして選手たちはベンチにもどってきた。

監督らしい男の人が立っていた。それは祐一くんのお父さんだった。その人はいきなり祐一くんに近づくと、頭をげんこつでなぐった。

(1) **心情** ——— 線① 「祐一くんは両膝を地面につき、うなだれた。」とありますが、このときの祐一くんの気持ちを説明した次の文の( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

キャッチャーである自分がボールを

せいで試合に負けて、

気持ち。

(2) **心情** ——— 線② 「花は、心臓をだれかの手にぎゅっとつかまれたような気がした。」とありますが、このときの花の気持ちとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祐一くんのせいで試合に負けたことをくやしく思う気持ち。

イ 監督になぐられても平気な祐一くんをふしぎに思う気持ち。

ウ 祐一くんと監督との仲がよくないことにおどろく気持ち。

エ 監督に責められている祐一くんを見てつらくなる気持ち。

(3) **内容をつかむ** ——— 線③ 「ぎよっとした顔」とありますが、ほかの子どもたちは、どんなことに対して「ぎよっとした顔」をしたのですか。次のように二つに分けて考えるとき、( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

・監督が祐一くんを必要以上に強く叱ったこと。

・監督らしい男の人が立っていた。

・祐一くんが

( ) こと。



祐一くんはふわっと飛んだ。飛んでだれかにぶつかった。でも転ばずに、体勢を立て直した祐一くんは、さつきと同じ顔をしていた。へらへらと歯を見せて笑っていた。

「笑うな、へたくそキャッチャー。」と、監督である祐一くんのお父さんは祐一くんの肩をつかんで揺さぶった。祐一くんの体がぐさぐさと揺れた。

②花は、心臓をだれかの手にぎゅつとつかまれたような気がした。

祐一くんはなにも言わなかった。ぐらぐらと体を揺すられながら、さつきと同じように笑っていた。

ほかの子どもたちは、ぎよつとした顔で監督と祐一くんを見ていた。

「祐一、笑うな。」と、そばの選手が祐一くんの肩に手をおいて小さい声で言った。その子がキャプテンらしかった。「叱られたとき、祐一、笑うなって。」

③それでも、まるで笑顔が顔に張りついてしまったかのよう、祐一くんの顔は笑ったままだった。だが、祐一くんがほんとは笑っているわけじゃないことは、だれもが知っていた。どうしてだか顔はそうになっているのに、心の中ではきつと泣いているのだ、と花も思った。ほかの選手たちにもそのことがわかつているようだった。「みんなにあやまれ。おまえのせいで負けたんだぞ。」と、お父さんの監督は言った。そして祐一くんの背中をどんと押した。祐一くんのお父さんは、自分の息子のせいで試合に負けたことに、責任を感じているのかもしれない。

〈岩瀬成子「金色の象」所収「幽霊の庭」より〉

④花と祐一と同じクラスで、祐一とは幼なじみの小学校六年生の女の子。

(4)

内容をつかむ

——線④「まるで笑顔が顔に張りついてしまったかのように、祐一くんの顔は笑ったままだった」とありますが、このような祐一くんの態度について、花はどのように考えましたか。文章中から十五字でぬき出しなさい。


(5)

あらすじ

この文章では、花が野球の試合を観戦している場面がえがかれています。できごとを次のようにまとめるとき、にあてはまる言葉を、文章中からぬき出しなさい。

・祐一くんの失敗が原因で、祐一くんたちのチームが野球の試合に負けてしまった。

←

・チームの監督は祐一くんの

--	--	--	--	--

だった。

←

・祐一くんのせいで試合に負けたことに、監督は

--	--	--	--

を

感じたらしく、みんながおどろくくらいに祐一くんを叱った。

ポイント

あらすじのつらえ方

(5)の問い

時間や場所の変化に注目する。…最初は野球の試合の場面です。祐一くんと選手たちの様子から、勝敗がわかります。

事件の中心をつかむ。…事件は祐一くんが試合でミスをしたことに始まり、まわりの人々の反応とともに話が進んでいきます。

練習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ぼく」の家は〈ベンボー提督亭〉という宿屋を営んでいるが、その宿屋に泊まっていた「船長」と呼ばれる海賊が死んで、その持ち物の中から「宝島」の地図が発見された。

その夜もあけ、つぎの日、ぼくは昼食を終えると、レッドルースさんといっしょに出発し、母さんと、生まれたときからなれ親しんだ入り江と、〈ベンボー提督亭〉に別れをつげた。といっても〈ベンボー提督亭〉は真新しく塗りがえられていたので、それほどさびしいとは思わなかった。最後に頭に浮かんだのは、あの船長のこと、ほおにサーベル傷があり、いつも帽子をあみだにかぶって真鍮の望遠鏡をかかえ、大またで入り江を歩いていた船長のことだった。と、つぎの瞬間にはもう角をまがり、家はみえなくなってしまった。

夕方近く、郵便馬車が〈ジョージ王亭〉のまえでぼくたちをひろつてくれた。ぼくはレッドルースさんとがっしりした老紳士にはさまれるようにしてすわっていた。馬車は速く、夜風は冷たかったが、すぐに眠りこんでしまったにちがいない。馬車が山を登り、谷をくだり、駅から駅へとかけていくあいだもずっと丸太のように眠っていた。そして、わき腹をつつかれてようやく目をさますと、馬車は街の通りにある大きな建物のまえにとまっていて、とつくに夜があけていた。

「どこ？」ぼくはたずねた。

「\*プリストルだ。」レッドルースさんがいった。「さ、おりよう。」

\*トリローニさんは、快速帆船の仕事を監督するために、波止場の

(1) この文章のあらすじにしたがって、次のア〜オのできごとを起きた順番に並べなさい。

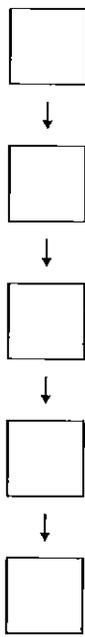
ア レッドルースさんといっしょに、郵便馬車に乗ってプリストルに向かう。

イ いかにも港町らしいプリストルの町の様子を目にして、「ぼく」は感動する。

ウ これから始まる旅のことを思っ、て、「ぼく」は期待をふくらませる。

エ 「ぼく」は、生まれ育った入り江や母親や〈ベンボー提督亭〉に別れをつげる。

オ プリストルの町に着き、トリローニさんが寝泊まりしている宿屋に向かう。



(2) 線①「このときはじめてほんものの海をみたような気がした」とありますが、「ぼく」は、なぜこのように感じたのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生まれた土地から遠くはなれたことに満足していたから。

イ なれ親しんだ入り江とはちがって海が美しかったから。

ウ 船や水夫たちが集まった生き生きとした情景を見たから。

エ 見知らぬ町に来て、何もかもがめずらしかったから。

(3) 線②「そんな老水夫たちが、いかにも船乗りらしく、あぶなっかしい足どりで歩いている」とありますが、船乗りが「あぶなっかしい足どり」で歩くのは、なぜですか。わかりやすく説明しなさい。



むこうにある宿屋に寝泊まりしていた。ぼくたちはそこまで歩いていかなくはならなかったが、途中、胸がおどってしかたなかった。道が港ぞいのびていたの、かぞえきれないくらいに船を目にすることができたからだ。そのどれも、大きさも帆の形も国籍もまちまちだ。ある船では、水夫たちが歌をうたいながら仕事をしているし、またある船では、男たちがはるか上のほうで、クモの糸くらいにしかみえないロープにぶらさがっている。ぼくは生まれてからずっと海のそばで育ってきたのに、このときはじめてほんものの海をみたような気がした。タールのおいも潮の香りも、なぜか新鮮に思われた。みたこともないふしぎな船首飾りの像。おそらく大草原をわたってきたのだろう。それから年老いた水夫たちもずいぶんいた。耳輪をした人、ほおひげのさきをまるくカールさせた人、タールのしみついた髪を一本に編んでいる人、そんな老水夫たちが、いかにも船乗りらしく、あぶなつかしい足どりで歩いている。そう、ぼくたちが船の上でよたよた歩くのと同じで、船乗りは陸の上ではうまく歩けないのだ。③④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

④ これから海に乗りだしていくのだ。快速帆船に乗って、合図に呼び子を吹きならす水夫長といっしょに、髪を一本に編んだ水夫たちといっしょに、海に乗りだし、一路、みたこともない島めぐし、うめられた宝をさがしに。(ステイブソン/金原瑞人訳「宝島」より)

⑤ レッドルースさん 地主のトリローニさんの家の召使い。

⑥ サーベル 剣。あみだ 後ろにかたむけてかぶること。

⑦ プリストル 港町の名前。トリローニさん 地主。

⑧ タール 黒い油状の液体。塗料・防腐用に用いる。

⑨ 大司教 ローマカトリック教会で司教の上の聖職。

⑩ 呼び子 人を呼び合図に吹く小さい笛。

(4) 線③ 「どんな王様や大司教をみたところで、これほどうれ

しい気持ちにはなれなかっただろう。」とありますが、ここから「ぼく」のどんな気持ちかわかりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生まれ育った場所とはちがう大きな港町を見て、にぎやかな町の様子に感心する気持ち。

イ 本物の船乗りたちを見て、船旅がいよいよ始まることを実感してわくわくする気持ち。

ウ 大きさや国籍がちがうたくさん船を見て、世界が広いということにおどろく気持ち。

エ 年老いた水夫たちの姿を見て、船の上で一生を送る生活にあらがれをいだく気持ち。

(5) 線④ 「これから海に乗りだしていくのだ。」とありますが、

「ぼく」たちは、何のために海に乗りだそうとしているのですか。書きなさい。

### 言葉のまど

大海原(32～33行目)、「大」は「海原」をかざる言葉で、「海原」だけでも「広々とした海」のことを表します。古い時代の日本語では、「海原」は大きい池や湖のことをいつときにも使われました。

3 詩

表現技法や情景・心情をとらえる

確認問題

1 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

ばらの初夏

工藤直子

① ばらの新芽の しなやかなこと  
ちいさな娘の 手首のように  
いのちのながれが  
すきとおってみえる

風が ふいた  
光が ふった  
ばらの新芽に  
てんとうむしが とまった

② てんとうむしは まるで  
ちいさな娘の 手首にひかる  
ちいさな腕時計のようだ  
耳にあてればコチコチ  
初夏の音がする

(1) 詩の種類 この詩の種類を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 文語定型詩
- イ 文語自由詩
- ウ 口語定型詩
- エ 口語自由詩

(2) 表現技法・情景 線①「ちいさな娘の……すきとおってみえる」について、次の各問いに答えなさい。

- 1 使われている表現技法を次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 直喩
- イ 擬人法
- ウ 体言止め
- エ 倒置

2 「ばらの新芽」のどんな様子を表現していますか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 葉脈が光にすけている様子。
- イ かわいい葉がつやつやしている様子。
- ウ 弱々しく今にも折れそうな様子。
- エ みずみずしくやわらかそうな様子。
- オ 手入れが行き届いている様子。



(3) 内容をつかむ 線②「てんとうむしは……ちいさな腕時計のようだ」とありますが、「てんとうむし」は、この詩の中でどんな存在ですか。次の( )にあてはまる言葉を詩の中からぬき出しなさい。

( ) ( ) のおとずれを知らせる存在。

ポイント 情景のとらえ方……(2)の問い

表現に注目して、情景をとらえる。……この詩では、「ちいさな娘の手首」から連想するイメージを、新芽の様子に結びつけています。

2 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

春  
坂本遼

①\* おかんはたった一人  
峠田たけのぼりのてっぺんで鋤くわにもたれ  
大きな空に  
小ちやいからだを  
びよつくり浮うかして  
空いっばいになく雲雀ひばりの声を  
ぢつと聞いてゐるやろで

里さとの方で牛うしがないたら  
ぢつと余韻ひびきに耳みみをかたむけてゐるやろで

大きい 美しい  
春がまははつてくるたんびに  
② おかんの年としがよるのが  
目めに見みへるやうで かなしい  
おかんがみたい

③ おかんはお母さん。  
峠田たけのぼりは段々だんだん煙けむり。  
やろでいだらう。

10

5

(1) **場面** 作者はこの詩をよんだとき、どのようなどころにいたと考えられますか。「おかん」という言葉を使って書きなさい。

(2) **表現** この詩の表現の特徴を次のようにまとめました。  
にあてはまる言葉を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 隠喩いんゆ イ 方言 ウ くり返し  
エ 素直すなおに オ 冷静に カ 激はげしく

④ を使って、「おかん」を思う心を ⑥ 表現している。

□ a □ b □

(3) **内容をつかむ** — 線①「おかんはたった一人」で、何をしていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 農作業にあせを流しながら、飼っている牛を心配している。  
イ 農作業の手を休めて、雲雀や牛の声に耳をかたむけている。  
ウ 農作業にあきて、雲雀や牛の声をぼんやり聞いている。  
エ 農作業を忘れ、春の美しい田園風景に見とれている。

□

(4) **内容をつかむ** — 線②「おかんの……かなしい」とありますが、作者はこの詩で、「おかん」が年をとった様子をどのように表現していますか。七字

でぬき出しなさい。


(5) **心情** この詩では、作者の「おかん」に対するどんな気持ちがよまれていますか。書きなさい。

**ポイント** 心情のとりえ方……(5)の問い

心情を表す言葉に注目する。……「かなしい」「おかんがみたい」など、心情を直接表す言葉には、作者の強い思いが表れています。